

**「愛・地球博 基本理念の継承と発展に向けて」
2005年日本国際博覧会基本理念継承発展検討委員会 報告書(案) 骨子**

- ①基金運用益の活用ではなく、10年間程度の期間を限って資金を集中的に投入。
②運営収支残を、概ね1:1に配分。

【継承発展事業の具体案】

| 事業の方向 | 全 国 | 開催地域 |
|----------------|---|---|
| 記憶に刻む | <ul style="list-style-type: none"> ・公式記録集等による成果・評価の発信 ・「モリゾー&キッコロ」キャラクターの活用 ・教材の開発や出版活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・「愛・地球博記念公園」の「アイデアのひろば」や「万博記念館」、 ・「海上の森」の整備におけるシンボリックな事業への支援 ・愛知の象徴である名古屋城本丸御殿の復元事業への支援 |
| 繰り返し伝える | <ul style="list-style-type: none"> ・サラゴサ博や上海博への継承 ・学術的なシンポジウムや周年事業等の実施 ・BIEとの協働による国際博覧会運動の展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的技術の再生や最先端技術の実用化について、世界に向けて発信する事業への支援(メッセ・ナゴヤ等) ・地元交流や環境技術に関する留学生招聘事業、文化芸術面、産業面、学術研究面での交流事業への支援(グレイター・ナゴヤ・イニシアティブ等) |
| 遺産を具体的な形で実用化する | <ul style="list-style-type: none"> ・公募により、趣旨に合致する事業への支援(取崩し可能基金の活用) ①愛知万博から生まれた社会行動や社会システムの定着・発展事業(EXPOエコマネー等) ②その先導役たるNPO/NGO等の活動や組織化 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境調査、里山保全、森林育成等における市民活動への支援(モリゾーとキッコロの庭再生事業等) ・最先端技術分野における科学技術研究及びそのネットワーク化の強化・高度化事業への支援(科学技術交流センター構想、ナノテクセンター構想等) |

- ①博覧会協会は業務終了後速やかに解散。新組織の設置は行わない。
- ②次の条件を満たす法人に権利義務と運営収支残の1/2を継承
- ・設立趣旨や活動が理念の継承発展に合致
 - ・資産管理能力と事業遂行能力の具備
 - ・円滑な権利義務の継承が担保されること、国の監督が及ぶこと
- ③開催地域にも拠点を設置

- ①各事業の構成等は、開催地域の意向を最大限に尊重。
- ②最終的な国の許可の前に、まずは開催地域の関係者の意見調整が期待される。
- ③愛・地球博の意義をシンボリックに示すものまたは愛・地球博の具体的な成果が目に見える形となるために、事業の具体化又は絞り込み必要。
- ④各事業への資金配分手法、これ以外の同様の事業支援の方法(基金方式、支援対象事業の公募及び有識者等による外部審査制の採用等)要検討。